

1. ^{おさき}尾崎川流域の概要

1.1 流域の概要

二級河川尾崎川は、広島県広島市の東部沿岸域に位置する流域面積 4.1km²、流路延長 1.85 kmの都市河川です。その流れは、安芸郡海田町つくも地区に始まり、海田町の中心市街地を南流し、最下流部で大きく西向きに折れ曲がった後、尾崎樋門を経て広島湾に注いでいます。なお、尾崎川には支川が存在せず、流域に降った雨はすべて下水道雨水排水路を通過して河川に流入しています。

流域は、上流部が海田町、下流部が広島市安芸区から構成されており、左岸側が古くからの住宅地及び商業地域、右岸側が埋立地で工業地域及び陸上自衛隊海田市駐屯地^{かいたいち}となっています。なお、土地利用状況は、8割以上が市街地で、残りが周辺の山林とわずかな田畑となっています。また、尾崎川流域及びその周辺は広々とした低平地となっており、南東の山地部を除き、隣接する二級河川瀬野川^{せの}、三迫川^{みさこ}、矢野川^{やの}が尾崎川の流域境界となっています。

(1) 流域の自然環境

気候は、瀬戸内気候区に属し、年平均気温 16.5 程度と温暖ですが、年平均降水量は約 1,600mm で少雨です。月別では、梅雨期・台風期を中心とした5月～9月に降雨が集中しています。

地形は、流域の大部分が標高約 1～3 mの平坦地で、南東部に標高 200m程度の小起伏山地が存在し、地質は、大部分が隣接二級河川である瀬野川河口部に形成された沖積堆積層と大規模な干拓地の上に造成された埋立地です。なお、山地部は中生代白亜紀の広島花崗岩類となっています。

林相は、山地部に県内で一般的なコバノミツバツツジ～アカマツ群集、コナラ群集などの二次林が分布しています。

(2) 流域の社会環境

人口は、流域の大部分を占める安芸郡海田町で横ばい、広島市安芸区が増加傾向にあり、現時点の尾崎川流域内人口は約 2 万 4 千人です。

流域内の土地利用状況は、8割以上が市街地で、残りが周辺の山林とわずかな田畑となっています。なお、尾崎川沿いはほぼ市街化され、近年は山沿いの緩傾斜部の開発がわずかに行なわれているのみとなっています。

主要交通としては、流域北部の国道 2 号及びこれに接続する尾崎川沿いの国道 31 号及び J R 呉線^{くれ}があげられます。海田町及び広島市では、これら幹線交通と周辺商工業地域の高度利用及び住宅地域のコミュニティ拠点整備などにより、地域の活性化とうるおいのある町づくりを目指した取り組みを行っています。

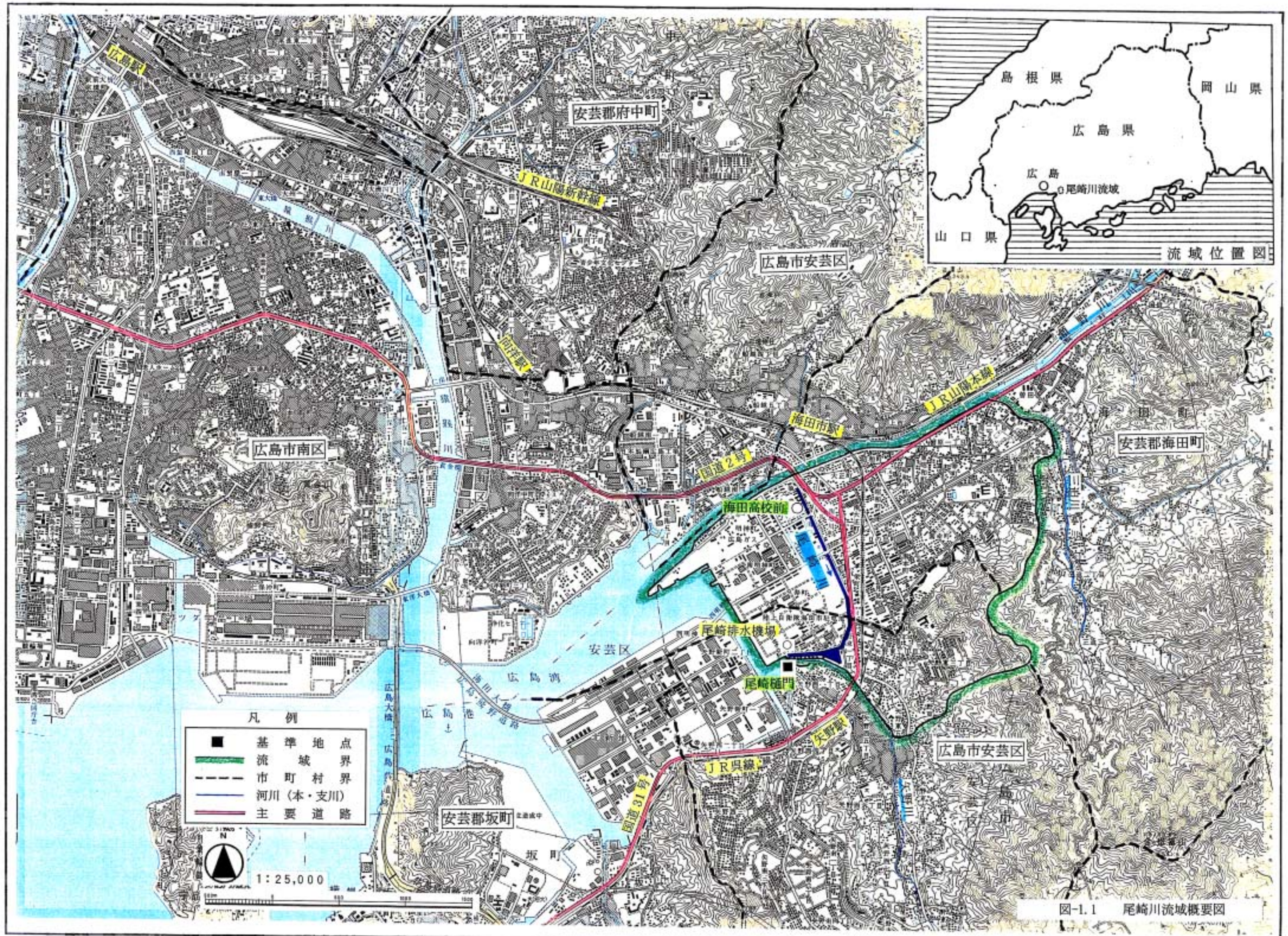
尾崎川の歴史は、古くは流域のほとんどが海でしたが、17世紀の^{あさの}浅野氏藩政時代から藩営の干拓事業に着手し、徐々に海に向かって埋立てが進められていきました。近代になり、昭和11年に当時の干拓地のさらに海側が旧陸軍の軍需品補給基地として開発され、その際、干拓地との間に設けられた排水路が現在の尾崎川の原形となっています。海岸線と並行に流れる尾崎川の特異な形態は、以上のような経緯から生まれたものです。

(3) 尾崎川水系河川管理区間

尾崎川水系の広島県管理区間を表-1.1に示します。

表-1.1 尾崎川水系河川管理区間一覧

河川名	区 間		河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	河川法適用年月日
	上 流 端	下流端			
尾崎川	左岸： 安芸郡海田町海田市字西9ノ割1576番13地先 右岸： 安芸郡海田町海田市字12ノ割1709番地先	瀬戸内海へ至る	1.85	4.1	S54.10.1



1.2 現状と課題

1.2.1 治水に関する現状と課題

尾崎川流域の大部分は、17世紀の浅野氏藩政時代以降、低平な干拓地として埋立てられた地域で、古くから度々洪水被害にみまわれてきましたが、家屋が少なく、田畑の冠水等が主であったため、大きな問題となることはありませんでした。

その後、昭和11年に沖合いが旧陸軍基地として嵩上げされる際に、尾崎川の本流となった水路と遊水池、河口部に汐止め樋門と排水ポンプが設置されました。さらに終戦後、一時イモ畑等に利用されていた右岸側軍用地が、現在の自衛隊用地へととなる一方、左岸側の水田やぶどう畑が徐々に宅地化され、特に、昭和40年頃からの急速な都市化の進展につれ、水田が減少し保水能力が低下した上に、開発の際に行われた盤上げの影響により、浸水深が増大し、それまで浸水していなかった山側の地区まで新たに被害が発生するようになっていきました。

この当時15年間（昭和44年～58年）の被害報告によれば、浸水回数8回、床上浸水67戸、床下浸水777戸であり、特に昭和54年以降は毎年1～2回の浸水を繰り返していました。

このため、河口部に尾崎排水機場（排水能力9m³/s）を新設するなどの対策を行った結果、その後15年間（昭和59年～平成10年）の被害は、浸水回数3回、床上浸水2戸、床下浸水124戸と、それまでに比べて明らかに状況は改善されましたが、依然として被害が発生しており、適切な安全度を有する新たな治水計画の策定と洪水防御対策の早期実施が課題となっています。

表 - 1.2 尾崎川の浸水被害状況

洪水名	浸水戸数		降水量 (mm)	最大1時間 降水量(mm)	
	床下	床上			
S44. 7. 7	40		136	22	尾崎樋門 昭和43年改修
S49. 7.16	90		99	18	
S54. 6.27	74	12	98	16	堀川ポンプ場 昭和50年新設 毎秒2.0m ³
S55. 7. 9	63	6	87	17	
S56. 6.27	80		69	29	
S57. 7.16	320	10	223	38	
S57. 8.27	46	35	36	18	
S58. 9.28	64	4	168	28	
H 3. 7.12	91		46	23	尾崎排水機場 昭和58年新設 毎秒3.83m ³ 昭和59年増設 毎秒3.83m ³ 昭和60年増設 毎秒1.34m ³ 合計 毎秒9.00m ³
H 4. 8. 8	1 29	2	110	36	
H 7. 8.12	2 -		47	19	
H 8. 6.28	3 4		53	13	
H 9. 7. 9	4 -		67	14	

- 1 J R呉線下の国道2号通行止め（1時間20分間）
- 2 J R呉線下の国道2号通行止め（15分間）
- 3 J R呉線下の国道2号通行止め（約2時間）
- 4 曙町道路通行止め（15分間）

1.2.2 利水に関する現状と課題

尾崎川は、8割以上が市街地で、残りが周辺の山林とわずかな田畑となっており、水利権が設定されておらず水利用が存在しないため、利水に関する課題はありません。

1.2.3 河川環境に関する現状と課題

(1) . 水 質

尾崎川には、水質汚濁に係わる環境基準の指定を受ける水域は存在していませんが、平成5年、平成9年に各5カ所で行った水質調査結果によれば、やや改善傾向は見られるものの、ほとんどの地点でBOD値が15~35mg/lとなっており、特に中・下流部では、現在でも下水臭等の不快な臭気が発する状況となっています。

広島市及び安芸郡海田町では、計画的に下水道整備を進めており、平成11年度末時点における処理区域内の整備率は約70%、この内の水洗化率は約80%となっています。

尾崎川の水質が改善傾向にあるのは、以上のような下水道整備の進展によるものと考えられますが、依然として続いている悪臭等の発生を早期に解消し、沿川住民の良好な生活環境を確保するため、関係機関と協力し、水質浄化等の対策を行っていく必要があります。

表-1.3 尾崎川の水質

項目	測定年	海田高校前	県道矢野海田線交差点	陸上自衛隊正門前	三角遊水池	尾崎樋門
BOD (mg/l)	平成5年	27	17	35	27	27
	平成9年	20	15	23	8	25

(2) . 動植物

尾崎川に生息・生育する動植物は、カダヤシやメダカなどの小型淡水魚が中・上流部で、ボラなどの汽水魚やコサギ、カワセミなどの鳥類が河口付近でわずかに確認できるほか、一部の護岸の隙間や天端などにススキやヨモギなどの植物が見られます。このように尾崎川に生息・生育する動植物は少なく、絶滅危惧種であるメダカなど、より多くの動植物が生息・生育できるよう水質改善を図ることが課題となっています。

(3) . 河川空間の利用

尾崎川は、埋立てによって形成された人工河川であり、兩岸をコンクリートで固められた河道形態は、単調な景観であるだけでなく、動植物が生息・生育する場としても適した状況であるとは言えません。このため、レクリエーション、釣り、散策等を含め、河川利用もほとんど行なわれていないのが現状で、比較的広いスペースを有する三角遊水池部などを中心に、都市部の貴重な水辺空間として、その環境改善を図っていく必要があります。